

日本都市計画学会関西支部 令和2年度学生ワークショップ
～堺旧港周辺のまちづくりを考える 開催記録～

■ 趣旨

日本都市計画学会関西支部では、将来のまちづくりや都市計画を担う人材育成に貢献するため、学生の方々を対象に、まちづくりや都市計画への関心を持って頂く活動に取り組んでいます。

今回は、「堺グランドデザイン 2040」に位置付けられ、中世以降、海外貿易港として発展した堺旧港と一体となった水辺の公共用地について、活用・検討が進められている「堺旧港周辺」を題材に、10月21日（水）と12月19日（土）に、学生のみなさんを対象としたワークショップを開催しました。

■ 開催要領

- ◇主催：日本都市計画学会関西支部
- ◇後援：大阪府、堺市
- ◇日時：【1日目】2020年10月21日（水）19：00～20：30
【2日目】2020年12月19日（土）14：00～17：30
- ◇場所：【1日目】大阪市立大学梅田サテライト文化交流大ホール
【2日目】オンライン開催
- ◇参加者：学生30名

■ 開催概要

【1日目のプログラム】

1. 対象地の説明（講演）

（1）大阪広域ベイエリアまちづくりビジョン（中間とりまとめ）について

講師：大阪府 住宅まちづくり部 まちづくり戦略室 都市空間創造課 参事 平田 貴栄 様

○大阪広域ベイエリアまちづくりビジョン

- ・現在、大阪府、大阪市、堺市で「大阪広域ベイエリアまちづくりビジョン」を取りまとめている。
- ・ベイエリアには、夢洲・咲洲のIRや万博開催などの大きなイベントだけでなく、堺、アウトレットモールなど南に広がる地域資源があり、ベイエリアの活性化を府全体の活性化に繋げていくことを目的としている。
- ・万博開催、IR開業、リニアの開通といったインフラ整備を経て、2050年を長期目標とした計画。
- ・ベイエリアに期待される役割は、IR計画地等の広大な土地を活用しながら世界的なエンターテインメント、堺旧港のような文化的要素、泉州地域では産業の技術開発などの機能強化、南の地域では自然の環境保全等、各地域の多様な資源を活かし、ベイエリア全体の活性化を図ること。
- ・これまで、港だけの計画を行っていたが、これからは背後地（内陸）を含めた計画を検討している。
- ・公共は動きが遅い部分があるため、公民連携を行い、民間のスピードを活かし、民間活力で活性化

をめざしている。

○取組の方向性

・「みかく」「つなぐ」「広げる」「育てる」の4つのキーワードで計画を取りまとめている。

・「みかく」：既存の地域資源を各地域で守り、育てる。

・「つなぐ」：各地域の地域資源を繋いでいく。船、鉄道、サイクル、祭でつなぐ。港と内陸地を繋ぐ。淀川や水都大阪の「川」と「海」を繋ぐ。府は海上交通活性化を担う。

・「広げる」：それらを兵庫や和歌山等周辺地域に広げていく。

・「育てる」：人、取組やまちを育てる。

・夢洲（国際的な施設）、堺浜（スポーツ、賑わい施設）、堺旧港（歴史的な資源等、駅が近いことを利用）を重点エリアをとっている。

・自転車をそのまま船や鉄道に載せ、淡路島や琵琶湖周辺も含めて回遊できるようにしたい。社会実験も行っている。（深日港～洲本港）

・大阪から堺へはサイクルでつなぐ。それには、サイクルポートや休憩所のこと考える必要がある。

・様々な交通手段があるが、どんなことをすれば皆が使ってくれるかを検討しようとしている。



○堺旧港の計画について

・交通を繋いでも発着地が楽しくなければ、船に乗らない。

・夢洲は既に楽しいスポットとなっているが、それ以外の所で何ができるかを考える必要がある。堺旧港もなにができるかを考えてほしい。

・堺旧港の内陸側には、環濠や古墳等の地域資源があるが徒歩では周遊できない。そこをサイクルでつなぐと回れる。

・堺は、縦の鉄道はあるが、堺東や仁徳陵などの横の連携を検討している。

・今回対象の堺旧港も様々な地域資源があるのでそれを活かした計画を検討してほしい。

・2050年を長期目標として大きく夢を描いてほしい。今回のWSのアイデアをこれからの計画の参考にしたい。未利用地もあるのでどんなまちがよいのか現地で実感していただいて計画してほしい。

(2) 堺ランドデザイン 2040 と堺旧港について

講師：堺市 建築都市局 都市再生部 臨海整備課 課長 福知 正高 様

○堺市のプロフィール

- ・堺市は、面積約 150 km²、人口約 83 万人。市域は、「臨海部」「環濠都市」「百舌鳥古墳群」「泉北ニュータウン」の大きく 4 エリアに分かれる。
- ・「臨海部」には製造業が集積し、モノづくりが盛ん。製造品出荷額は約 3.6 兆円で、人口一人当たり製造品出荷額では政令市 1 位である。
- ・「環濠都市」は中世には海を通じて発展し、文化や情報などが多く入ってきた。鉄砲の最大の生産地で、その後、刃物の生産などに受け継がれている。

○堺ブランドデザイン 2040

- ・2031 年にはなにわ筋線、2037 年にはリニア新幹線が新大阪まで完成することから、2040 年は広域な人の流れが生まれる。この流れを如何に堺に取り込むかが重要。キャッチフレーズを「関西のゲートウェイ都市」「悠久の時を超え未来へ歩む都市」としている。
- ・ニュージーランドのオークランドやノルウェーのオスロなど海外都市を手本に、ボードレスに広がる港や公園、駅周辺を繋げる海辺のモール、質の高いオフィス・宿泊飲食施設の立地などを目指したい。



○堺旧港の成り立ち・現況

- ・洪水対策としての 1704 年の大和川付け替え以来、河口部に土砂が堆積したため新田開発を行い、1810 年には現在の堺旧港の原型が完成。現在も当時の形状がそのまま残っている。
- ・親水護岸は大阪府が整備しており、今年度に全体が完成予定。北側親水護岸の背後地には、堅川ポンプ場がある市有地、そのほか府有地、国有地がある。堅川ポンプ場も含めこれら未利用地については、利活用を検討しているところ。
- ・南側の大浜体育館立替整備（PFI）については、来年 4 月にオープン予定。大浜北町の市有地については、事業用定期借地によりホテルや飲食を検討している。
- ・南海本線堺駅から堺旧港に至る導線は、距離的には近いものの国道 26 号線の高架があり体感として遠いこと、堺旧港はエリアの回遊性がよくないことが課題。

○堺旧港親水護岸の利活用

- ・親水護岸はレンガを使用したきれいな護岸であり、うまく利活用したい。
- ・利活用の社会実験として、「Sakai Sunset Port」を実施。学生によるステージイベントや飲食を行い、利活用についての可能性を感じたところ。
- ・利活用のケース案としては、護岸と後背地に段差があるため、後背地の 1 階を駐車スペース、2 階を賑わい施設とすることで護岸と一体的な空間づくりができないかと考えている。さらに、店舗で得られ

た収益を、エリア内の清掃活動などの資金に還元するエリアマネジメントにより、持続的な運営ができればと考えている。

・堅川下水ポンプ場については、耐震化された市の施設であるが、将来的には機能移転される施設である。更地にすることは難しいので、施設を残したうえで、例えば、屋上を活用したカフェなどリノベーションができないか考えている。

・以上のように堺旧港には、親水護岸と景色、未利用地がある。あまり知られていないが、これらをうまく組み合わせて魅力ある空間づくりができないか考えている。学生の皆さんには、少し尖った斬新なアイデアを提案してもらうことを期待している。

2. 課題の発表

・対象地の土地利用について、下記の提案を行うことを課題としました。

◆提案内容

①堺旧港の歴史や既定の構想等を踏まえ、港北側（堺区戎島町5丁付近）の親水護岸に面した土地の土地利用について、以下の4点を提案。

1) 相応しい土地利用に関するコンセプト、2) 導入する機能、
3) 開発する建物の階数と高さ（規模）、4) 完成イメージ（パース）

②堅川下水ポンプ場を土地利用転換する案についての提案

③南海本線堺駅から当該地へ至る歩行者動線についての提案

（既定の都市計画を変更する場合は、都市計画変更用いる手法もあわせて提案）

・審査の視点は①新規性、②地域性、③都市計画との整合、④実現性の4点とする。

3. ディスカッションタイム

・次回の提案発表に向けて、各班で役割分担やスケジュールなどについて話し合いました。



【2日目のプログラム】

1. 各班の発表

オンラインで各班とも発表 10 分、
質疑応答 10 分で行いました。



2. 審査・講評

厳正なる審査の結果、各班の講評は以下のとおりとなりました。各賞を受賞された方には、後日、賞状をお送りしました。

(審査員)

岡井有佳 (立命館大学工学部都市システム工学科教授)
山口敬太 (京都大学大学院工学研究科准教授)
大西 卓 (竹中工務店開発計画本部西日本第 4 グループ部長)
財部祐介 (大阪府住宅まちづくり推進部まちづくり戦略室長)
澤中 健 (堺市建築都市局都市再生部長)

(各班の講評)

1 班

「港を体験する」というコンセプトで、コンテナを活用したにぎわい空間などを創るという提案だった。パブリックな水辺に宿泊施設をセットにすることで、いわばプライベートな水辺を創り、それによって事業性の課題も解決し、魅力的な空間を創っていかうという考え方であり、夜の景観なども含め、新しい水辺の良い体験ができそうな場所のイメージがよく伝わった。

コンテナの仮設性の考え方や都市計画上の課題は少し弱い点があるのと、いろいろ考えてきた内容をすべて説明できるオリジナリティのあるコンセプトになっているかどうかについてはもう少し頑張れたのではと思うところもあるが、空間の提案として非常によくまとまった良い提案である。

2 班 優秀賞

モビリティ中心に、話を展開している点が優れていた。新しいモビリティは社会的にもまちづくり的にも話題のキーワードで、注目されており、本提案で示されたモビリティと建物との関係性は、今後のまちづくりを考えるうえで、先取的な面があり、優れた提案であった。

また、広域的な視点やにぎわいの観点から、周辺にもにぎわいをつなげていくという点も非常に面白い提案であった。

3 班 審査員特別賞

きっちりと現状分析ができており、都市計画も押さえている。コンセプトもしっかりしている。府有地の建物は、護岸にマッチしたデザインとなっており、建物内部の動線についても非常に思い入れを持つ

て計画しているのが好ましい。

特にポンプ室についての水耕栽培のアイデアは素晴らしく、今後のリノベーションに活かせる非常に良い提案であると感じた。

4班 優秀賞

水辺から広がるにぎわいというコンセプトで、水上アクセスや舟運といった内容が非常によくまとめられている提案である。また、サイクルについては、今まさに堺市が府などと連携して重点的に検討しているところであり、行政としても非常に参考になる点が多かったと思う。

少し気になったのは用途変更を提案している点。現実には、この細い幅の土地のみ用途変更を行うことは難しいため、別の手法を打ち出していただければなお良かった。

5班

境をなくし堺で栄えるというコンセプト、歴史を活かしていくというコンセプトで、駐車場・広場空間・飲食店の配置・レンタサイクル・サイクリストの拠点など、規模感も現実的で、バランス良い形でまとめた提案である。

誰が整備するのか、どう活用する方法やにぎわいの広がりがあるのかという点が課題であり、ソフトの歴史資源やまちとの関係がもう少し提案できているとさらに良かった。

6班 最優秀賞

コンセプトに至るまでのプロセスとして歴史的経過や現状認識を十分踏まえ、それらとあわせたコンセプトを出し、それを展開しているが故に、ターゲットのみならず、施設構成・内容も明確になっていた点が非常に優れている。

また、デザインだけでなく、アクティビティも含め、周辺のまちとの関係性も活かした展開を提案しており、トータルの総合的なバランスも含めて非常に優れている。



ご参加いただいた皆様、大変ご苦労様でした。ありがとうございました！